

岩手大学教育学部 外部評価報告書

平成16年3月

岩手大学教育学部
岩手大学大学院教育学研究科

『岩手大学教育学部外部評価報告書』の刊行に当たって

岩手大学教育学部長 藤原 隆 男

岩手大学教育学部では平成14年度から15年度の約2カ年計画で、平成10年度以降の5カ年間に於ける岩手大学教育学部及び岩手大学大学院教育学研究科の教育活動、研究活動、地域貢献、国際貢献等についての自己点検評価を実施して参りました。この作業は、教育学部・大学院点検評価委員会並びに教育学部の各種の関係委員会を中心として実施したのですが、研究活動の評価については各講座が積極的に取り組み、平成15年12月に『岩手大学教育学部自己点検評価書・外部評価資料』として刊行したところであります。

このたび、上記の『岩手大学教育学部自己点検評価書・外部評価資料』及び『岩手大学教育学部外部評価補遺資料』、『岩手大学教育学部外部評価参考資料』（「岩手大学教育学部『ニューチャレンジプラン—目指すべき教員養成の全体像—」」、「教員養成の新たな教育課程とカリキュラム」、「『インクルージョンプラン』実施計画」など）をもとに、次の先生方に外部評価委員をお願いして平成16年2月に外部評価委員会を開催することができました。本報告書は外部評価委員会の内容を取り纏めて『岩手大学教育学部外部評価報告書』として刊行するものであります。

外部評価委員にご就任頂きました先生方は、前東京学芸大学学長・日本教育大学協会長の岡本靖正先生、大学評価・学位授与機構教授の山本恒夫先生、岩手県教育委員会教育長の佐藤勝先生、中国・清華大学人文社会科学学院の中文系主任王中忱先生であります。外部評価委員会の開催に先立って質問等の厳しい指摘が寄せられ、評価委員会では教育学部の教育・研究等の全般にわたって、その改善と発展に資する貴重なご意見を頂戴しました。また、評価を頂いた教育学部の取り組みや励ましの言葉を賜りましたことは、誠に有り難く、厚く御礼を申し上げる次第であります。

外部評価委員の先生方からご指摘を頂きました内容は本書によってご理解を頂きたく存じます。岩手大学教育学部及び岩手大学大学院教育学研究科の一層の充実と発展の指針としてこの外部評価書を活用し、その改善・改革に努めて参りますので、宜しくご支援とご指導を賜りますようお願いを申し上げます。

岩手大学教育学部・大学院教育学研究科外部評価委員

岡 本 靖 正 東京学芸大学名誉教授（前東京学芸大学長・日本教育大学協会長）

山 本 恒 夫 大学評価・学位授与機構教授

佐 藤 勝 岩手県教育委員会教育長

王 中 忱 中国・清華大学人文社会科学院中文系主任

（敬称略）

岩手大学教育学部外部評価報告書

目 次

- ・『岩手大学教育学部外部評価報告書』の刊行に当たって
岩手大学教育学部長・大学院教育学研究科長 藤原隆男
- ・岩手大学教育学部・大学院教育学研究科外部評価委員名簿

目 次

外部評価実施概要.....	1
1. 岩手大学教育学部・大学院点検評価委員会等スケジュール	
2. 岩手大学教育学部外部評価委員会日程及び出席者	
3. 外部評価委員に配付した資料一覧	
外部評価委員会会議録.....	5
平成16年2月6日(金)開催	
外部評価を受けて.....	39
教育学部・大学院点検評価委員会副委員長 望月善次	
外部評価資料.....	41
岩手大学教育学部自己点検評価報告書・外部評価資料	

外部評価実施概要

1. 岩手大学教育学部・大学院点検評価委員会等スケジュール
外部評価をめぐる講演とシンポジウム（平成14年3月25日）
同講演とシンポジウム報告書発行（平成14年7月）
教育学部教授会（平成14年12月17日）
平成15年度の自己点検・評価及び外部評価について承認。
5名のワーキンググループにより，点検評価項目，及び観点等について協議
以後，委員会の都度報告，了承。
大学改革推進等経費（外国人評価委員による外部評価）の申請（文部科学省宛）
（平成15年2月）
教授会席上で外部意見の聴取（教育学部OB，保護者代表から）
（平成15年2月）
学部・大学院点検評価委員会（平成15年5月6日）
外部評価のための自己評価書の作成について，評価項目，分担，スケジュール協議
学部・大学院点検評価委員会（平成15年5月15日）
自己評価書の作成について審議。対象期間を研究業績については過去5年間，その他につ
いては3年間とした。
学部・大学院点検評価委員会（平成15年7月16日）
自己評価書作成関係委員会に資料準備を要請
全教官に個別研究業績の提出を通知
文部科学省高等教育局から大学改革推進等経費の配分通知（平成15年7月30日）
プロジェクト名：外国人等評価委員による大学評価
学部・大学院点検評価委員会（平成15年10月17日）
点検評価書の進捗状況確認，外部評価委員の候補者の提案
教育学部自己点検評価報告書・外部評価資料完成（平成15年12月22日）
外部評価委員に就任依頼，招聘状の送付（平成15年12月15日）
委嘱状，評価関係資料の送付（平成15年12月24日）
補足資料の送付（平成16年1月29日）
学部・大学院点検評価委員会（平成16年1月13日）
外部評価委員会準備について，評価後の具体的改善について
学部・大学院点検評価委員会（平成16年1月28日）
会議の進行，事前質問に関する回答資料の対応協議

岩手大学教育学部外部評価委員会

平成16年2月6日 13時30分から

2. 岩手大学教育学部外部評価委員会日程及び出席者

日 時 平成16年2月6日(金) 13時30分～17時
会 場 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング

1 開 会

- 1) 開会の辞 13時30分
- 2) 学部長挨拶
- 3) 出席者紹介

2 教育学部概要及び自己評価報告書についての説明 13時45分～

- 1) 全体説明 望月善次
- 2) 教育について 星野勝利
- 3) 研究(大学院含む)について 菅原正和
- 4) 学部運営・地域貢献他について 望月善次
- 5) 国際交流について 我妻則明

(休憩) 14時30分～14時40分

3 質疑・応答

(休憩) 15時50分～16時

4 外部評価委員意見陳述

外部評価委員 岡本靖正 東京学芸大学名誉教授(前東京学芸大学長)
山本恒夫 大学評価・学位授与機構教授
佐藤勝 岩手県教育委員会教育長
王中忱 中国清華大学人文社会科学院中文系主任

5 開 会

17時

- 1) 学部長謝辞
- 2) 閉会の辞

出席者(敬称略)

外部評価委員(4名)

岡本靖正 東京学芸大学名誉教授(前東京学芸大学長)
山本恒夫 大学評価・学位授与機構教授
佐藤勝 岩手県教育委員会教育長
王中忱 中国清華大学人文社会科学院中文系主任

教育学部出席者(16名)

藤原隆男 教育学部長
望月善次 学部・大学院点検評価委員会副委員長

湯澤比呂子	学部・大学院点検評価委員会委員
遠藤匡俊	学部・大学院点検評価委員会委員
押切源一	学部・大学院点検評価委員会委員
内山三郎	学部・大学院点検評価委員会委員
種倉紀昭	学部・大学院点検評価委員会委員
鎌田文聰	学部・大学院点検評価委員会委員
我妻則明	学部国際交流委員会委員長
大野眞男	学部将来計画委員会委員
菅原正和	教育研究推進委員会委員長
栗林徹	入試実施検討委員会委員長
星野勝利	学務委員会副委員長
新妻二男	教育実習委員会委員長
中村一基	就職委員会委員長
藪敏裕	学部国際交流委員会副委員長

陪席者

東昭夫	事務長
千葉八郎	事務長補佐（附属学校事務室長）
古井修子	専門員（学部運営担当）
久保進一	専門職員（研究協力担当）
藤澤篤雄	専門職員（教育実習担当）
佐々木浩	総務係長

3. 外部評価委員に配付した資料一覧

【事前配付資料】

- (1) 岩手大学教育学部自己点検評価報告書・外部評価資料
- (2) 参考資料
 - 岩手大学大学院教育学研究科 現状と課題
 - 岩手大学教育学部自己評価委員会第2回報告
 - 外部評価をめぐる講演とシンポジウム
 - 岩手大学概要
 - 岩手大学教育学部概要
 - 岩手大学教育学部2003「21世紀の教育を創るのはあなた」

【当日配付資料】

- (1) 補遺資料
 - 教育， 研究活動， 地域連携・貢献活動， 広報活動， 管理・運営，

将来構想, 国際交流に関する自己評価と改善計画

(2) 個別研究活動評価基準資料

(3) 岩手の教育と岩手大学教育学部の関わりを考える会からの提言・要望

(4) 参考資料

岩手大学教育学部「ニューチャレンジプラン」 - 目指すべき教育養成の全体像 -
教育養成の新たな教育課程とカリキュラム

「インクルージョンプラン」実施計画, 「インクルージョンプラン」

(5) 教師教育 (教員養成教育・現職教育) のカリキュラム開発に関する基礎的研究

- 「岩手大学教育学部の教師教育のカリキュラム開発のためのアンケート」結果と分析 -

外部評価委員会会議録

平成16年2月6日(金)開催

○司会(押切源一 学部・大学院点検評価委員 以下、司会)

ただ今より岩手大学教育学部外部評価委員会を開催させていただきます。

なお、発言等はマイクを使っておこないますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

では初めに、学部長よりあいさつをお願いします。

○藤原隆男学部長(以下、学部長)

それでは、ごあいさつを申し上げます。

本日は、ご多用のところを外部評価委員会のためにご出席いただきまして、誠に有難く御礼を申し上げます。外部評価委員の先生方におかれましては、大変ご多忙のところをまげて委員をお引き受けいただきまして、本当に心から感謝を申し上げます。

このたびの自己評価書は、総論的な観点から教育研究、あるいは地域貢献、国際交流、その他管理運営等、広範な分野を含むものでございます。この際、教育上あるいは研究上、その他の分野を含む教育学部を総体としてマクロ的にその実態を明らかにしておいた方が、将来において改善すべき点を俯瞰的な立場から検討する上で必要なことであるというふうに考えた次第であります。そのことから、自己評価書の内容は実態を述べることに一つの力点が置かれてございます。その上で、ご評価をいただく上で必要な自己評価と改善計画等につきまして、本日、資料を配付させていただいておりますので、これもご参考いただきまして、忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願いを申し上げます。

次第では自己紹介を行うことになってございますので、引き続きご出席いただいております評価委員の先生方を、順不同ではございますけれども、ご紹介を申し上げます。

先生方から向かって右側の岡本靖正先生からご紹介申し上げます。岡本先生は、東京学芸大学の学長として、また日本教育大学協会の会長として、教員養成系大学学部のかじ取りを行っておいでで、ご指導をいただいて参ったわけでありまして。評価問題に関しまして申し上げますと、岡本先生のご指導によりまして、日本教育大学協会では第一常置委員会に評価に関するプロジェクトというものを立ち上げることにいたしました。教員養成系大学学部にはふさわしい教育評価、あるいは研究評価のあり方について検討を進めるということになっているところであります。ご退任後、大変ご多忙な毎日をお過ごしでございます。最近では兵庫教育大学大学院学校教育研究科博士課程の外部評価を行って来られたばかりとお伺いをいたしてございます。岡本先生からは、このような立場から厳しいご指導がいただけるのではないかと存じ上げる次第であります。

続きまして山本恒夫先生をご紹介申し上げます。山本先生は、筑波大学から大学評価・学位授与機構においでになり、専門家の立場から我が国の大学評価についてのご指導をされておいででございます。岩手大学の教育学部では、先般先生からご指導をいただいて、勉強をさせていただいたところでございますけれども、先生もこの1月に、大学評価・学位授与機構によりまして

教育系の評価に続いて経済系の第三者評価を終えたばかりとお伺いいたしてございます。大変お疲れのところではございますけれども、そうした第三者評価を実施してきた立場から、忌憚のないご指導をお願い申し上げたいと思っている次第であります。

それから、佐藤勝先生をご紹介申し上げます。佐藤先生は、岩手県教育長として岩手県教育のかじ取りをされていらっしゃるわけでありまして、大学と県及び地域との連携につきましても、これまで大変ご指導をいただいていたところでもあります。過日の岩手県教育長との懇談会におきましても、岩手県の教員養成、あるいは採用、研修、連携等につきましても、広い立場から検討するということになりましたが、これまで岩手県教育委員会と岩手大学教育学部は特に地域連携特別委員会等を通じましてご指導をいただいていたところでもあります。この評価委員会では地域の求める教員の養成、あるいは地域の求める人材の養成ができていないか、こうした立場からご指導をいただけるのではないかと期待をいたしている次第であります。よろしく申し上げます。

最後になりましたけれども、王中忱先生をご紹介申し上げます。王先生は、中国の清華大学人文社会科学学院の学部長に相当される中文系主任をされておられます。平成12年12月に私どもの教育学部と清華大学との間で学術交流及び学生交流を締結いたしまして、それに伴いまして清華大学での日本語教育実習などを含む交流を行ってまいったわけでありまして。昨年の12月には、大学間交流という形で岩手大学と清華大学との間で大学の交流を締結したところがございますけれども、こうした交流のかなめとして王先生からご指導をいただいていたところでもあります。こういう立場から、国際交流のあり方がどうあるべきかという観点からご指導がいただければ大変幸いであると存じております。

以上、簡単ではございますけれども、外部評価委員の先生方のご紹介をさせていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○司会

それでは、続きまして本学よりの出席者の紹介を東事務長からいたします。

○東事務長

それでは、私の方から本日ここに出席いたしております教育学部の委員会等の委員の先生のご紹介、もしくは陪席いたします事務方のご紹介をさせていただきます。

お手元にお届けしております名簿に準じて読み上げる形でご紹介させていただきますので、よろしく願いいたします。

教育学部長の藤原隆男でございます。

学部・大学院点検評価委員会副委員長の望月善次でございます。

それから、同委員の湯澤比呂子でございます。

同委員の遠藤匡俊でございます。

同委員の押切源一でございます。

同委員の内山三郎でございます。

同委員の種倉紀昭でございます。

同委員の鎌田文聰でございます。

それから、学部国際交流委員会委員長の我妻則明でございます。

学部将来計画委員会委員の大野眞男でございます。

教育研究推進委員会委員長の菅原正和でございます。

入試実施検討委員会委員長の栗林徹でございます。

学務委員会副委員長の星野勝利でございます。

教育実習委員会委員長の新妻二男でございます。

就職委員会委員長の中村一基でございます。

学部国際交流委員会副委員長の藪敏裕でございます。

それから、本日陪席させていただいております事務方をご紹介します。

事務長補佐の千葉八郎でございます。

専門員の古井修子でございます。

専門職員の久保進一でございます。

同じく専門職員の藤澤篤雄でございます。

それから、総務係長の佐々木浩でございます。

私、最後になりましたけれども、事務長の東でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会

それでは、引き続きまして自己評価についての報告を担当の委員よりさせていただくことにします。

まず、全体説明の方、望月副委員長、よろしくお願いいたします。

○望月善次 学部・大学院点検評価副委員長（以下、望月評議員）

学部・大学院点検評価副委員長の望月でございます。よろしくお願いいたします。

まず、岡本先生、山本先生、佐藤先生、そして王先生に心から感謝を申し上げたいと思います。もし外部評価で4人の先生方をお迎えできるとしたら、これ以上の先生方をお迎えできないと思います。そういう幸運に恵まれたことを感謝申し上げたいと思います。

全体的なことにつきましては、3点申し上げたいと思います。一つは、学部としてはどういう問題意識で、何を中心にして考えているかということが1点です。2点目は、大体今までどんなふうな経過でこの評価の問題に取り組んできたかということです。3点目としてはこの後の具体的な説明をどんな分担でさせていただくかということについて申し上げます。

まず、1点目の学部の問題意識ですけれども、これは端的に申し上げますと、とにかく評価を通して「具体的な改善」を行いたいということです。やはり私どもの従来の評価もそうでしたし、全国的なものなどを見ましても、評価で疲れてしまっていて、その後の改善のところへなかなかいかないというところがありまして、何とか評価を通して実際の、また具体的な改善の方に踏み出していくことを目指してやっております。ぜひそういう点からご指導いただきたいと思います。

2点目の従来どんなふうの問題に取り組んできたかということにつきまして申し上げたいと思います。現在の学部の機構としましては、「学部・大学院点検評価委員会」になっておりますけれども、10年ほど前に平成4年ですけれども、教育学部の「自己評価委員会」を、立ち上げて評価の問題につきましてはある程度本格的に取り組みました。そして、それを踏まえまして第1回の報告書というものを翌年の平成5年に、そして第2回の報告書を平成8年に出しました。また私ども平成7年度から大学院修士課程がスタートしたのですけれども、全国でも非常に遅い方ではなかったかなと思って反省はしておりますけれども、その発足の後を踏まえまして、大学院につきましての評価は平成12年に行っております。しかし、これらの点検・評価は先生方にも御覧いただいたと思うのですけれども、先ほど申し上げましたように、「具体的な改善」に向かうということにつきましては、共通して問題を残してきたと存じます。

なお、評価につきましては、先ほど学部長の方からも申し上げましたように、平成14年には山本先生をお迎えして外部評価をめぐる講演とシンポジウムを行いましたし、また新しい試みとしては学部の中で外部の方から意見を言っていただくということで、PTAの代表の方や卒業生や旧教官の立場からの方をお迎えをして、教授会の席上で直接皆さんの要望を言っていただくという機会を設けました。しかし、全般的には、繰り返すようですけれども、「具体的な改善」をどうしていくのかという問題点を抱えておりまして、重ねてこの点からのご指導を賜りたいと思います。

3点目の本日の発表の具体的報告の仕方ですけれども、4人の者が申し上げさせていただきます。最初に、「教育」についてを星野の方から申し上げます。次に、「研究」について菅原の方から申し上げます。それから、「学部運営・地域貢献等」につきましては望月の方から申し上げます。そして、最後に「国際交流」につきまして我妻の方から申し上げます。時間は、星野、菅原の方が10分程度、望月の方が12、3分、我妻の方が7分程度というふうなことを考えておりますので、どうぞよろしくご指導いただきたいと思います。

○司会

それでは、教育につきまして、星野副委員長より、お願いします。

○星野勝利学務委員会副委員長（以下、星野教授）

それでは、教育に関する自己評価と改善計画につきまして報告させていただきます。学務委員会を担当しています星野と申します。よろしくお願いいいたします。

教育関係の自己評価は、報告書では3ページから25ページに該当します。項目としましては、3ページの「1」の教育の目的・目標及び「2」の教育の実施体制から始まりまして、25ページの「6」の就職実態と支援体制まで、全体で6個の項目でまとめられています。ただ、量的にアンバランスな項目も出ましたので、お手元の白表紙の資料「補遺資料」と書いてあるものですが、その1ページ目にこれから報告したいことがまとめてありますけれども、四つの項目に集約させていただきました。教育体制と教育内容、教育方法、生活指導の4項目です。以下、項目ごとに簡単に説明させていただきます。

最初に、「1」の教育体制、制度・組織関係ですが、評価としましては、平成12年度に行わ

れました課程改組以来、今年度の完成年度に向けまして、組織の充実が一定程度図られてきたと考えています。ただ、教員養成課程の現在の課程のあり方や新課程のあり方、特に生涯教育課程のあり方につきましては、問題があると考えています。また、附属学校の役割の強化という点でも、まだ解決すべき課題が残されていると考えています。

実績的なものとしましては、生涯教育課程と芸術文化課程という新しい二つの課程を設置しましたが、この課程組織の定着を図るために指導体制等の充実を図ってきたことが一応挙げられるかと思えます。また、この改組とともに学部内の各種委員会の整備を図りました。まだ十分に機能していないところも一部ありますが、全体としては機能の充実が図られたのではないかと考えています。

最後に、改善計画とありますけれども、今後の改善計画としましては、新課程と教員養成課程を含めまして、学部の課程のあり方全体の充実を図る必要があると考えています。お手元に白表紙の資料で「参考資料」と、本日新たにつけ加えられた資料があるのですが、この「参考資料」には資料1、資料2、そして資料3の資料が添付されておりますが、これは課程再編のための現段階での案となっております。

また、現行の本学部の入試制度は、中学校課程の募集単位が極めて小さいという問題を抱えています。「参考資料」の2番にカリキュラムの再編案があるのですが、それは募集単位を大きくりにしようとするもので、このような問題への対応も視野に入れたものであります。

また、附属学校に関しましては、各校園ともそれなりに実績を上げてきたと考えていますが、さらに充実を図るために「参考資料」の3番の1、2のような「インクルージョンプラン」というものを作成しました。そのための具体的行動計画も作成しました。今後は、これらに基づいて学部や附属学校の制度、組織の充実を図っていきたいと考えています。

「2」の教育内容、カリキュラムにつきましてですが、評価としましては学校教育教員養成課程と生涯教育課程、芸術文化課程の各課程で一定の成果を上げてきたと考えています。ただ、各課程の教育目標を達成するためには、カリキュラム全体の再検討が必要ではないかと考えています。

実績としましては、初期ゼミや総合演習、あるいは小学校課題科目といった新しい科目の導入を図ったことや、教育実習の期間の拡大を図ったこと、あるいは観察実習を導入し、地域教育実習という新しい実習を試行的に実施したことなどが挙げられるかと思えます。また、新課程の設置と関連しまして、共通科目や基礎科目、あるいは発展科目など、新しい科目を設置したこととか、海外での教育実習を実施したことなども挙げられるのではないかと考えています。

今後の改善計画としましては、課程改組とともに学部カリキュラムの全体的な再編を実施したいと考えています。先ほどから触れています「参考資料」の、特に資料2に添付してある資料がそのような現在検討中の案となっております。

次に、「3」の講義や学習、教育環境など教育方法関係ですが、全体的評価としましては、学生による授業評価や学習支援の取り組みなどで一定の成果が見られたと考えています。ただ、授業評価の充実ということやシラバス作成、あるいはFD活動への参加の徹底、あるいはまたIT環境の整備、コンピューター環境の整備などの点でお改善の余地があると考えています。

実績としましては、授業評価を新入生対象の初期教育科目と各教科の専門教育科目、その双

方で実施したことが挙げられるかと思っています。また、ホームページにシラバスの掲載を図ったことも一応の実績かと考えております。

改善計画としましては、たくさんあるのですが、一つは授業評価に関しまして回収率の向上を図るということと、評価の内容を何らかの形で公開しなければならないということがあります。第2としましては、シラバスの全員掲載を徹底して、チェックシステムの構築を図りたいと考えております。第3としましては、FD関係なのですが、全学で行われている活動への構成員の全員の参加ということと、内容の充実をさらに図りたいということを考えています。また、第4点としましては、IT環境の整備ということで、学生用ホームページとして便利帳的な学生ポータルサイトというものを構築していきたいと考えております。

最後に、「4」の就職、学生相談、生活支援など生活指導関係ですが、評価としましては就職支援の取り組みや学生相談への対応については一定の改善が見られたと考えています。ただ、就職関係につきましては、現在大変厳しい状況にあるため、さらに充実した取り組みが必要だろうと考えています。

実績的なものとしては、就職支援活動の一環として就職相談室を設置したこととか、企業訪問や教採セミナーなどを実施してきたこと、これらが挙げられるかと思っています。また、セクシュアルハラスメント関係では、防止委員会や相談窓口というものを通して、この問題に対する対応を図ってきたことが挙げられるかと思っています。それから、まだ徹底はしていないのですが、オフィスアワー制度の導入を図ってきた点も一応挙げられるかと思っています。

今後の改善計画としましては、第1に就職指導の充実があるだろうと考えています。現在岩手大学では、事務組織が一元化されたという現状がありまして、事務と一体化した就職指導というのが大変困難になってきています。これを克服するためにもしっかりとした指導支援組織を確立して、結果として就職率の向上を図りたいと考えています。また、セクシュアルハラスメント関係では、難しい問題なのですが、相談員として弁護士などの学外専門家の導入を図ることも必要ではないかと思っています。

およそ以上が教育に関する全体の岩手大学教育学部の自己評価と改善計画の概要です。不明の点なども多々あるかと思いますが、それらにつきましては質疑のところでお答えしたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○司会

それでは、次に大学院も含んだ研究活動につきまして、菅原委員長よりお願いします。

○菅原正和教育研究推進委員会委員長（以下、菅原教授）

それでは、本学部の研究活動に関する自己評価と改善計画についてご報告申し上げます。報告書、並びに外部評価資料の26ページから75ページにわたって記載されております。

まず、全体的な評価といたしましては、先ほど望月委員長からお話がありましたように、岩手大学の大学院発足が全国的にかなりおくれましたが、教育学研究科の整備を進めながら、学部としての統一的な評価基準を設定する努力を続けてまいりまして、一応の合意を得たわけで